

2024年7月24日(水)

京都市総合支援学校教員研修会

姿勢運動研究会

運動・動作の課題を見立てる力をつけ、授業実践に活かす

～姿勢や運動の課題に生かす作業療法士の知と技～

Part2:不器用な子の姿勢・運動課題のみかた

# 不器用な子の姿勢・運動課題のみかた

- **DCD** (Developmental Coordination Disorders)
- 就学児童 (5～11歳) の約**6～10%**
- 男女比は、**2：1～5：1**で男児に多い
- 自閉症スペクトラム：**50～90%**
- AD／HD：**40～50%**
- 学習障がい：**40%**前後
- 言語遅滞：**53%**
- 情緒障がい：**47%** との合併
- **50～70%**で成人になっても残存

# 不器用な子の姿勢・運動課題のみかた

- 子ども達の**学習・認知・社会性・情緒の発達、自尊心**とも深く関わる。

- 大学など高等教育での**学業、就業訓練・職業選択、仕事での生産性**にも影響。

うつ病・不安障がいなどの**精神障がい、社会参加の低下、**

肥満や糖尿病などの生活習慣病から**心血管障がい**の

リスクが増加することも報告されている。

# 不器用な子の姿勢・運動課題のみかた

- DCDは決して目新しい発達障がいではないが、日本では子育て・保育・教育現場はもちろん、医療・療育現場においても、

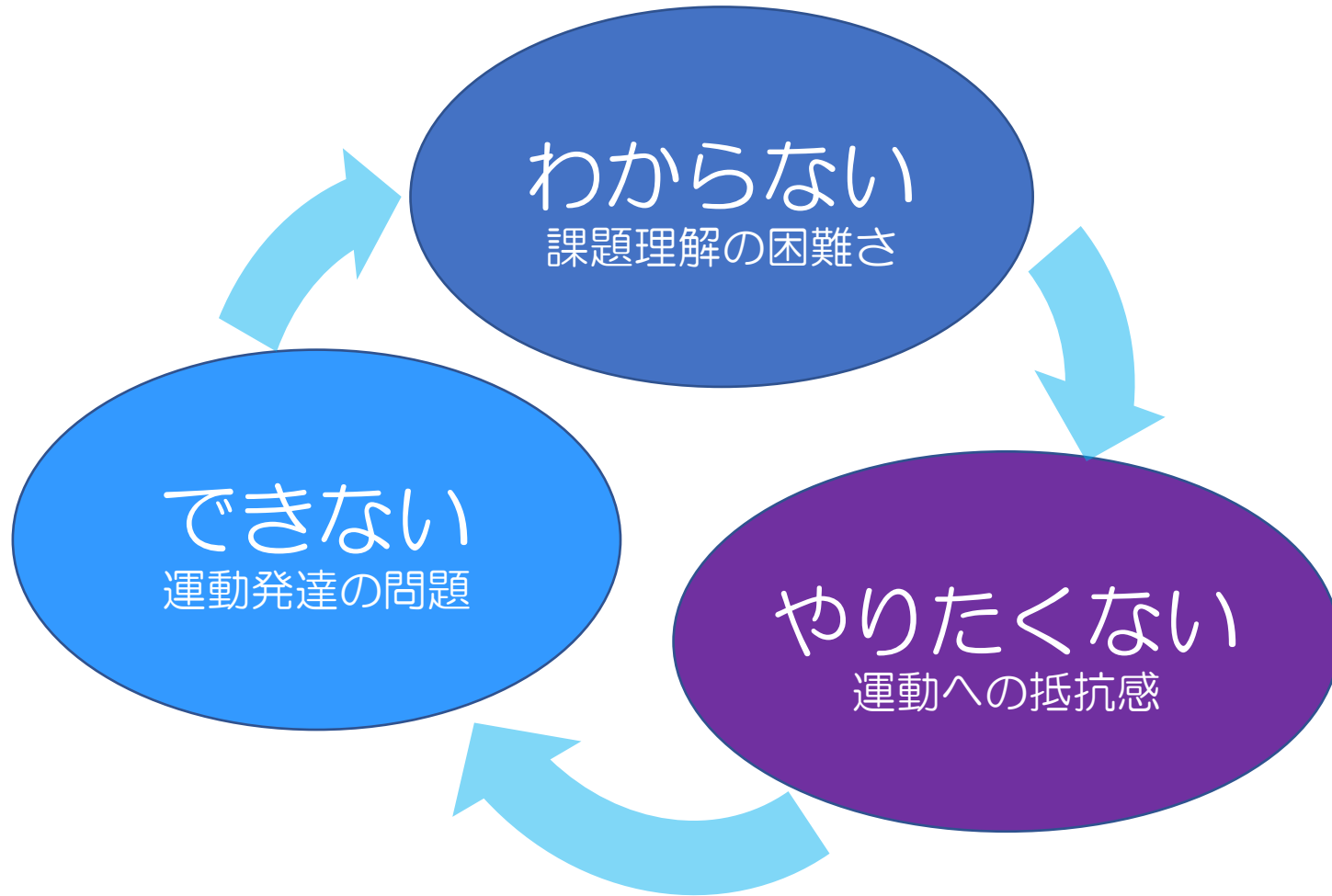
「**不器用さ**」が脳機能の1つである「**協調性**」の発達障がいであると理解・認知されにくい現状にある

- その結果、本人の努力や練習不足、保護者や教育者の指導力のせいなどと思われることも多く、

**いじめ**や**不適切な養育態度**、**自尊感情の低下**につながる

- 世界では1995年にDCDの第1回学術大会が開催されている

# 不器用な子の姿勢・運動課題のみかた



# 不器用な子の姿勢・運動課題のみかた 「わかる」ための工夫

## 【伝え方の工夫】

- 具体的表現  
(言語指示が困難な場合、言語以外の方法や、その子の認知特性を参考に方法を工夫)
- モデリング



バンザイで腕が伸びにくい子には...？

# 不器用な子の姿勢・運動課題のみかた 「わかる」ための工夫

## 【視覚的補助】

- 目標の明確化
- 結果の明確化
- 場所の明確化
- ルールの明確化



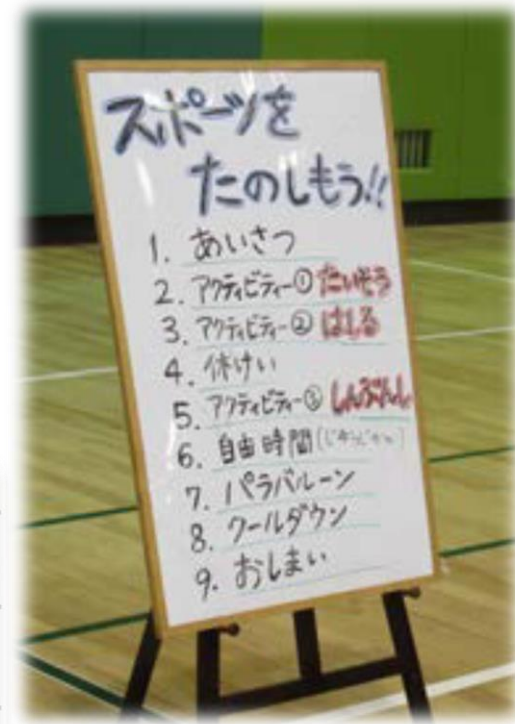
# 不器用な子の姿勢・運動課題のみかた 「わかる」ための工夫

## 【見通し伝達】

- 子どもの認知特性に合わせる
- 絵や写真、文字、数字、色、実物などを活用
- 見通しをわかりやすくする  
= 「今すべき活動に集中できる」

スケジュール表ひょう

 ①	 かえる
 ②	 てあらい うがい
 ③	 おやつ
 ④	 ほんをよむ
 ⑤	 おかいもの





不器用な子の姿勢・運動課題のみかた

## 「できる」ための工夫 【スモールステップ】

課題を段階的に細分化することで、  
小さな成功を積み重ねるための方法のひとつ

### ◆ステップの区切り方

- いまできる課題
- 少し頑張ればできる課題
- いまは難しい課題

### ◆課題設定の方法

- 課題のスモールステップ
- 目標のスモールステップ
- 道具のスモールステップ



# 不器用な子の姿勢・運動課題のみかた 「やってみたい」ための工夫

## 【ほめる】

- 即時的
- 受容的
- 具体的
- 無条件
- 個別性



## 【大人が楽しむ】

- 大人は身近な参照モデル



# 不器用な子の姿勢・運動課題のみかた

